

経営戦略事業評価調書（令和2年度取り組み状況）

■ 地域振興事業

A: 上回った(達成した)
(120%超の成果)

B: 予定通り(達成した)
(120%～80%程度の成果)

C: 下回った(達成できなかった)
(80%を下回る成果)

経営方針を踏まえた事業計画		令和2年度の取り組み状況・実績	令和2年度 取組評価	達成できなかった理由、改善策
項目	目標			
<1 指定管理者制度の適正な運用>				
1	指定管理者制度の適正な運用による施設運営の継続	指定管理者制度の適正な運用により、地域振興事業の経営の健全化を図る。	指定管理者のモニタリング調査等を通じ、制度の適正な運用を確保するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う休館等の影響額を算出し、不可抗力として納入金を減額するなど、円滑な施設運営の確保を図った。	B
2	収益的収支の黒字化	経費削減に努め、収益的収支の黒字を継続する。	前年度の純損失541万円に対して、当期純損失は11,244万円となり、2期連続の赤字となった。	C
3	借入金の計画的な償還	毎年度生じる損益勘定留保資金を借入金償還の財源として優先して充当し、計画的な償還を行う。	借入金の償還は行わなかった。	C
4	丘の公園施設・設備の計画的な更新・改修	施設・設備の計画的な整備を行うため、7年間の計画期間中に、設備改良費約9,600万円、修繕費約2億200万円を見込んでいる。このうちR2年度は、設備改良費2,311万円、修繕費2,599万円を見込んでいる。	設備改良費は2,299万円の支出(計画比99.5%)、修繕費は2,591万円の支出(計画比99.7%)となった。	B
	イ 当該期間の主な整備事業	カート通路更新(ゴルフコース)等を行う。	ゴルフコースカート道舗装補修工事やアクアリゾート清里の温水ヒータの更新、まきばレストラン厨房内の機器の取り替え等を行った。	B
<2 丘の公園の魅力向上に向けた施設運営のあり方の検討>				
事業継続が可能となるような事業規模や県民の新たな余暇ニーズに対応した施設運営のあり方等が問われていることを踏まえ、社会情勢の変化等により必要と認めるときは、外部検討委員会による検討を行い、丘の公園の魅力向上に努める。		-		-
<3 経営の効率化・健全性の確保>				
1	財政基盤の強化・効率化	より一層の事務的経費の縮減を図り、経営の効率化に努める。	事務的経費の支出が2.5万円となり、前年度(1万円)に比べると、事務的経費の縮減が達成できなかった。 ※事務的経費＝旅費、雑費	C
2	その他経営基盤強化	清里ウォーク等のイベントに協力するなど地域との連携を図る。また、地元の関係者や関係機関等と連携し、八ヶ岳南麓の地域振興のあり方等について検討する。	「つつじ祭り清里ウォーク」と「八ヶ岳トレイルラン」が中止となったため、「信玄公生誕500年記念復活の狼煙花火」に対して財政的支援を行った。また、八ヶ岳南麓地域の振興について北社市等関係機関と意見交換を行った。	B
3	資金管理・調達	財政健全化法の施行により資金不足比率が導入されたことも踏まえ、資金不足とならないよう納入金を安定的に確保するとともに、施設の維持管理経費等の支出は、収入に見合ったものとする。	新型コロナウイルス感染症に伴う休館等の影響額を納入金から減額したが、他会計からの新たな借入や他会計借入金償還金の減額等を行ったことで資金不足比率は△7.7%となり、資金不足は生じなかった。	B
4	危機管理の体制整備	災害その他の事故等が発生した場合を想定したマニュアル等に基づき、緊急事態発生時には、指定管理者と連絡を密にし、適切な対応を図る。	企業局災害対策本部連絡網において、緊急事態発生に備え24時間体制で連絡が取れるよう体制を整えた。	B
	イ ゴルフ場の農業使用の適正化	農業の使用については、「山梨県ゴルフ場における農業の安全使用に関する指導要綱」に基づき適正に行うほか、定期的にゴルフ場からの流出水についても水質検査を実施し、ゴルフ場における農業使用の適正化を図る。	「山梨県ゴルフ場における農業の安全使用に関する指導要綱」に基づき適正に農業を使用した。(R2年度は、県内ゴルフ場の平均使用量に比べ、75.1%)	B
	ウ アクアリゾート清里プール、温泉の衛生管理	プールの水質は、「山梨県プール維持管理指導要綱」に基づき、遊離残留塩素濃度は毎日、過マンガン酸カリウム消費量、水素イオン濃度、大腸菌群、濁度は毎月1回以上の検査を実施し、いずれも水質基準に適合した。また全ての風呂について、6月及び9月に水質検査を実施し、遊離残留塩素濃度は基準を満たしたほか、レジオネラ属菌についても不検出であった。	プールについて、遊離残留塩素濃度は毎日、過マンガン酸カリウム消費量、水素イオン濃度、大腸菌群、濁度は毎月1回以上の検査を実施し、いずれも水質基準に適合した。また全ての風呂について、6月及び9月に水質検査を実施し、遊離残留塩素濃度は基準を満たしたほか、レジオネラ属菌についても不検出であった。	B
	エ 個人情報保護対策	企業局が定める「丘の公園の個人情報の保護に関する要綱」に基づき、適正な取扱いを図る。	企業局が定める「丘の公園の個人情報の保護に関する要綱」に基づき、適正な取扱いを図った。	B

経営戦略事業評価調書（令和2年度取り組み状況）

■ 地域振興事業

A: 上回った(達成した)
(120%超の成果)

B: 予定通り(達成した)
(120%～80%程度の成果)

C: 下回った(達成できなかった)
(80%を下回る成果)

経営方針を踏まえた事業計画		令和2年度の取り組み状況・実績	令和2年度 取組評価	達成できなかった理由、改善策
項目	目標			
<4 投資・財政計画(収支計画)>				
1 投資試算(投資計画)	施設・設備の計画的な整備を行うため、7年間の計画期間中に、設備改良費約9,600万円、修繕費約2億200万円を見込んでいる。このうちR2年度は、設備改良費2,311万円、修繕費2,599万円を見込んでいる。	設備改良費は2,299万円の支出(計画比99.5%)、修繕費は2,591万円の支出(計画比99.7%)となった。	B	
2 財源試算(財源計画)	指定管理者からの納入金については、R4年度までは年間1億3,000万円と計画している。	年間1億3,000万円のところ、1億1,462万円減額して1,538万円となった。	C	円滑な施設運営の確保を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う休館等の影響額を算出し、不可抗力として納入金を減額した。
3 投資・財政計画(収支計画)	R2年度以降の収益的収支については、安定した納入金の確保と減価償却費の減少等により、黒字での推移を見込んでいる。 資本的支出については、設備改良費、借入金の償還費など約4,200万円から約6,300万円の支出を見込み、損益勘定留保資金などの内部留保資金を財源として充てることで対応する。 R2年度は、5,776万円の支出を見込んでいる。	収益的収支については、11,244万円の赤字となり、計画の92万円の黒字に対し、11,336万円減(計画比▲12.321%)となった。 資本的支出については、5,776万円の支出見込みに対し、2,299万円の支出(計画比39.8%)となった。不足する2,299万円については、消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び損益勘定留保資金で補った。	C	円滑な施設運営の確保を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う休館等の影響額を算出し、不可抗力として納入金を減額したことにより、財源が確保できなかった。